

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクシン ホリカガイク 学校法人 北陸大学									
フリガナ大学の名称	ホリカガイクガクイン 北陸大学大学院									
大学本部の位置	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地									
大学の目的	<p>本学は教育基本法及び学校教育法による大学として、建学の精神「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間の形成」に基づき、広く知識を授けるとともに、深く専門の知識と技能とを教授研究し、人格の陶冶を図り、文化の創造発展と公共福祉の増進に貢献し得る人物を育成することを目的とする。</p>									
新設研究科等の目的	<p>臨床検査学や理学療法学の領域において、健康増進、疾病・障害の予防、保健活動や生活指導などの役割や必要性を理解し、保健医療や地域医療の課題、疾病や障害構造の変化に対応できる高い専門性を有し、臨床所見を科学的に分析する研究法と科学的根拠に基づく課題解決力・実践力を身につけ、質の高い医療を提供できる高度専門職業人を養成することを目的とする。</p>									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	<p>【基礎となる学部】</p> <p>医療保健学部 医療技術学科 理学療法学科</p> <p>14条特例の実施</p>
	医療保健学研究科 [Graduate School of Health and Medical Sciences]	年	人	年次人	人	修士（医療保健学） [Master of Health Sciences]	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。） 保健衛生学関係（リハビリテーション関係）	令和7年 4月 第1年次	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地	
	医療保健学専攻 [Department of Health Sciences]	2	3	—	6					
計			3	—	6					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	医療保健学研究科 医療保健学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		15科目	6科目	0科目	21科目					
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設分	医療保健学研究科 医療保健学専攻（修士課程）	8 (7)	4 (4)	3 (3)	1 (0)	16 (14)	0 (0)	10 (9)		
	計	8 (7)	4 (4)	3 (3)	1 (0)	16 (14)	0 (0)	— (—)		
既設分	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
合計		8 (7)	4 (4)	3 (3)	1 (0)	16 (14)	0 (0)	— (—)		

職 種		専 属	その他	計					
事 務 職 員		55 (56)	17 (17)	72 (73)					
技 術 職 員		0 (1)	1 (0)	1 (1)					
図 書 館 職 員		1 (1)	2 (2)	3 (3)					
そ の 他 の 職 員		2 (2)	3 (3)	5 (5)					
指 導 補 助 者		— (—)	— (—)	— (—)					
計		58 (60)	23 (22)	81 (82)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	136,480.38㎡	0㎡	0㎡	136,480.38㎡				
	そ の 他	337,786.99㎡	0㎡	0㎡	337,786.99㎡				
	合 計	474,267.37㎡	0㎡	0㎡	474,267.37㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		62,975.96㎡ (62,975.96㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	62,975.96㎡ (62,975.96㎡)				
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室		講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の 専任教員研究室				
		44室	26室	58室	16室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	医療保健学部と 共用	
		医療保健学研究科	3,206 [40] (3,206 [40])	168 [1] (168 [1])	49 [13] (49 [13])	9 [8] (9 [8])	95 (95)		— (—)
	計	3,206 [40] (3,206 [40])	168 [1] (168 [1])	49 [13] (49 [13])	9 [8] (9 [8])	95 (95)	— (—)		
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	図書費には電子 ジャーナル・ データベースの 整備費（運用コ スト含む）を含 む。
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	—千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		19,000千円	19,000千円	—千円	—千円	—千円	
		図書購入費	180千円	180千円	180千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	1,700千円	500千円	500千円	—千円	—千円	—千円		
学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
			940千円	740千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金，資産運用収入，雑収入等							

大学等の名称	北陸大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度		
既設大学等の状況	薬学部 薬学科	6年	60人	—	750人	学士（薬学）	0.52 0.52	平成18年度	石川県金沢市金川町ホ3番地	令和元年度入学定員減（△20人） 令和2年度入学定員減（△40人） 令和3年度入学定員減（△35人） 令和4年度入学定員減（△20人） 令和5年度入学定員減（△5人） 令和6年度入学定員減（△40人）
	経済経営学部 マネジメント学科	4年	110	3年次 20	1,138	学士（マネジメント学）	0.77 0.77	平成20年度	石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地	令和3年度編入学定員減（△5人） 令和4年度入学定員増（15人） 令和5年度編入学定員減（△5人） 令和6年度入学定員減（△195）、編入学定員減（△83）
	経済学科	4年	140	3年次 10	140	学士（経済学）	—	令和6年度	同上	
	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	4年	60	3年次 10	380	学士（文学）	0.82 0.75	平成29年度	同上	令和3年度編入学定員増（20人） 令和4年度入学定員増（15人） 令和5年度編入学定員減（△10人） 令和6年度入学定員減（△35人）、編入学定員減（△20人）
	心理社会学科	4年	60	—	210	学士（心理学）	1.02	令和3年度	同上	令和5年度入学定員増（15人）
	医療保健学部 医療技術学科	4年	60	—	255	学士（医療技術学）	1.00 0.99	平成29年度	同上	令和3年度入学定員増（5人） 令和6年度入学定員減（△5人）
	理学療法学科	4年	60	—	120	学士（理学療法学）	1.03	令和5年度	同上	
附属施設の概要	名称：北陸大学薬学部附属薬用植物園 目的：薬学教育の基礎としての薬草の生態・研究施設、研究材料の栽培 所在地：石川県金沢市金川町ホ3番地 設置年月：昭和51年5月 規模等：土地 15,912.16㎡、建物 136.71㎡									

学校法人北陸大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北陸大学				北陸大学				
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	60	-	360	薬学科(6年制)	60	-	360	
経済経営学部				経済経営学部				
	3年次				3年次			
マネジメント学科	110	10	460	マネジメント学科	110	10	460	
	140	10	580	経済学科	140	10	580	
国際コミュニケーション学部				国際コミュニケーション学部				
	3年次				3年次			
国際コミュニケーション学科	60	10	260	国際コミュニケーション学科	60	10	260	
心理社会学科	60	-	240	心理社会学科	60	-	240	
医療保健学部				医療保健学部				
医療技術学科	60	-	240	医療技術学科	60	-	240	
理学療法学科	60	-	240	理学療法学科	60	-	240	
計				計				
	3年次				3年次			
	550	30	2,380		550	30	2,380	
北陸大学大学院				北陸大学大学院				
医療保健学研究科				医療保健学研究科				大学院の設置(認可申請)
	3年次				3年次			
医療保健学専攻(M)	<u>3</u>	-	<u>6</u>	医療保健学専攻(M)	<u>3</u>	-	<u>6</u>	
計				計				
	<u>3</u>	-	<u>6</u>		<u>3</u>	-	<u>6</u>	

教育課程等の概要																		
(医療保健学研究科医療保健学専攻)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員		
基盤科目群	医療保健学特論	1前	/	2			○			4						オムニバス、メディア		
	医療保健学研究法特論	1通		4			○			1	4	3			1	オムニバス、メディア		
	地域医療連携特論	1前			2			○							2	オムニバス、メディア		
	病態生理学特論	1前			2			○							2	オムニバス、メディア		
	健康医科学特論	1前			2			○							3	オムニバス、メディア		
	医療統計学特論	1前			2			○							1	メディア		
	疾患薬理学特論	1後			2			○							3	オムニバス、メディア		
	健康心理学特論	1後			2			○							1	メディア		
	教育方法学特論	1前			2			○							1	メディア		
	臨床教育学特論	1後			2			○			2					10	オムニバス、メディア	
小計(10科目)				6	16	0				5	4	3	0	0	10			
専門科目群	共通科目	人体機能学特論	1前	/	2			○			2	2					オムニバス、メディア	
		人体機能学演習	1後		2				○		2	2					オムニバス	
	小計(2科目)					4	0	0			2	2	0	0	0	0		
	臨床検査学領域	病態分析検査学特論	1後		/		2			○		2	1					オムニバス、メディア
		病態分析検査学演習	2前				2				○		2	1				オムニバス
		感染制御学特論	1後				2				○		1			1		オムニバス、メディア
		感染制御学演習	2前				2					○		1		1		オムニバス
	小計(4科目)					0	8	0			3	1	0	1	0	0		
	理学療法学領域	運動機能回復学特論	1後		/		2			○		1	1	2				オムニバス、メディア
		運動機能回復学演習	2前				2				○		1	1	2			オムニバス
生活機能回復学特論		1後		2					○		2		1			オムニバス、メディア		
生活機能回復学演習		2前		2						○		2		1		オムニバス		
小計(4科目)				0	8	0			3	1	3	0	0	0				
特別研究	医療保健学特別研究	1後~2通	/	8					○		8	4	3	0	0	0	メディア	
	小計(1科目)				8	0	0				8	4	3	0	0	0		
合計(21科目)					18	32	0				8	4	3	1	0	10		
学位又は称号	修士(医療保健学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係)													
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等										
基盤科目群：必修6単位 専門科目群：共通科目から必修4単位 領域科目の選択する領域から4単位以上(※) 特別研究：必修8単位 基盤科目群、専門科目群の選択科目から8単位以上 合計30単位以上を修得し、本研究科が実施する修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 ※ 専門科目群の領域科目のうち4単位は、選択する領域から、各特論科目と繋がる演習科目を修得すること。但し、4単位を超える場合はその限りではない。								1学年の学期区分			2期							
								1学期の授業期間			13週							
								1時限の授業の標準時間			105分							

教育課程等の概要																	
(医療保健学部 医療技術学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員	
一般教養科目	北陸大学の学び	1前		1			○								1	オムニバス	
	自然科学概論	1前		1			○			1					1		
	生命・医療倫理学	1後		1			○			1					1		
	英語	1前		1				○							2		
	医学英語	2後		1				○		1							
	情報リテラシー	1前		1				○				1					
	科学英語の基礎	2前		1				○							2		
	食べ物と健康	2前		1				○							1		
	薬とからだ	2後		1				○							1		
	基礎ゼミナールⅠ	1前		1					○		2	3	1		1		
	基礎ゼミナールⅡ	1後		1					○		2	3	1		1		
	心理学	1・2前・後			2				○								1
	哲学	1・2前・後			2				○								1
	社会保障と福祉	1・2前・後			2				○								1
	北陸の文化と社会	1・2前・後			2				○								1
	スポーツ	1・2前・後			1									○			1
	英会話	1・2前・後			1					○							1
	日本史	1・2前・後			2				○								1
	社会学	1・2前・後			2				○								1
	法学（日本国憲法含む）	1・2前・後			2				○								1
	データサイエンス	1後			1					○				1			
	生物学	1前			1				○								1
	化学	1前			1				○								1
	物理学	1前			1				○		1	1					1
	数学	1前			1				○								1
	海外研修	1・2前・後			1						1						
小計（26科目）		—	—	11	22	0		—		4	4	2	0	0	15		
専門基礎科目	医学概論	1前		1				○							1	オムニバス	
	解剖組織学	1前		2				○		1					1		
	解剖組織学実習	1後		1						1			1				
	生理機能学	1前		2				○		1							
	生理機能学演習	1後		1					○	2					1		
	生理機能学実習	2前		1						1				1			
	情報科学概論	1前		1				○					1				
	基礎微生物学	1前		1				○		1							
	生化学	1後		1				○			1						
	生化学実習	1後		1							1				2		
	応用数学	1後		1				○							1		
	機械工学（生体物理学）	1後		1				○		1	1						
	病理学	2前		1				○		1							
	医用工学概論	2前		1				○		1	2						
	医用工学概論実習	2後		1							2			1			
	計測工学	2前		2				○		1							
	電気工学Ⅰ	2前		1				○			1						
	電子工学Ⅰ	2前		1				○			1						
	臨床免疫学	2後		1				○		1							
	臨床免疫学実習	3前		1						1			1				
	臨床薬理学総論	3前		1				○							1		
	公衆衛生学	3後		1				○					1				
	関係法規	3後		1				○					1				
	臨床検査学基礎演習	2後			1				○	6	2	1					
	臨床工学基礎演習	2後			1				○	4	2	1					
小計（25科目）		—	—	26	2	0		—	10	4	2	1	1	7			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 (助手を除く) の教員	
専門科目 共通科目群	医用機器学概論	1後		2			○			1	1						オムニバス
	臨床一般検査学	1前		1			○			1							
	臨床一般検査学実習	1前		1					○	2					1		
	血液検査学Ⅰ	1後		1			○				1						
	血液検査学Ⅱ	2後		1			○				1						
	血液検査学実習Ⅰ	2前		1					○		1					1	
	検査機器総論	1後		1			○			1							
	検査診断学Ⅰ	1前		2			○			1							
	病理検査学総論	2後		1			○			1							
	放射線検査学	2後		1			○										1
	輸血・移植検査学Ⅰ	2前		2			○									2	オムニバス
	生化学検査学Ⅰ	2前		1			○			1		1					オムニバス
	生化学検査学Ⅱ	2後		1			○			2		1					オムニバス
	生化学検査学実習	2後		1					○	1		1					
	生体機能計測学Ⅰ	2前		2			○			1							
	生体機能計測学Ⅱ	2後		2			○			1							
	生体機能計測学実習ⅠA	2前		1					○	1						2	
	生体機能計測学実習ⅠB	2後		1					○	1						2	
	生体機能代行装置学Ⅰ	2前		2			○			1							
	生体機能代行装置学概論	1後		1			○			1							
	生体機能代行装置学実習Ⅰ	2後		1					○	1	1			1			
	専門職連携演習	3後		1					○	2		1				1	オムニバス
	地域チーム医療論	4後		1			○			2	1					1	オムニバス
	卒業研究Ⅰ	4前		1					○	10	4	2	1				
	卒業研究Ⅱ	4後		1					○	10	4	2	1				
	リハビリテーション学概論	2前			1			○								1	
災害と医療	2前			1			○		1								
細胞生物学	2後			1			○			1							
臨床心理学概論	2後			1			○								1		
画像解析学	3後			1			○								1		
小計 (30科目)		—	—	31	5	0	—	—	—	10	4	2	1	1	11		
専門科目 臨床検査学コース科目群	遺伝子・染色体検査学	3後		1			○			1	1						オムニバス
	遺伝子・染色体検査学実習	3後		1					○	1	1		1				
	医療安全管理学 (臨床検査学)	3前		1			○			1		1					オムニバス
	医療安全管理学実習 (臨床検査学)	3後		1					○	1		1					
	寄生虫検査学 (実習含む)	3前		1			○						1				
	血液検査学実習Ⅱ	3前		1					○		1					1	
	検査診断学Ⅱ	3前		2			○			1							
	検査診断学Ⅲ	4後		2			○			1							
	生体機能計測学Ⅲ	3前		2			○			1							
	生体機能計測学実習ⅡA	3前		1					○	1						1	
	生体機能計測学実習ⅡB	3後		1					○	1						1	
	精度管理と品質保証	3後		2			○			1							
	認知症の病態と検査	3前		1			○			2							オムニバス
	病理検査学Ⅰ	3前		1			○			1							
	病理検査学Ⅱ	3後		1			○			1							
	病理検査学実習Ⅰ	3前		1					○	1			1				
	病理検査学実習Ⅱ	3後		1					○	1			1				
	輸血・移植検査学Ⅱ	3前		1			○									2	オムニバス
	輸血・移植検査学実習	3後		1					○	1						1	
	臨床栄養学総論	3前		1			○									1	
臨床検査管理学Ⅰ	3前		1			○			1								
臨床検査管理学Ⅱ	3前		1			○					1						
臨床検査管理学Ⅲ	3後		2			○						1					
臨床微生物学Ⅰ	3前		2			○			1								
臨床微生物学Ⅱ	3後		2			○			1								
臨床微生物学実習Ⅰ	3前		1					○	1			1					
臨床微生物学実習Ⅱ	3後		1					○	1			1					
技能修得到達度評価 (臨床検査学)	3後		1			○			6	2	2	1				オムニバス	
臨地実習 (臨床検査学)	3後・4前		11					○	6	2	2	1					
臨床検査学演習	4後			2				○	6	2	2	1					
小計 (30科目)		—	—	0	48	0	—	—	—	7	2	2	1	0	5		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考					
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員				
専門科目 臨床工学コース科目群	電気工学Ⅱ	3前		2		○				1										
	電子工学Ⅱ	3前		2		○				1										
	電気磁気学	4後		1		○			1	1							オムニバス			
	システム工学Ⅰ	3前		1		○				1	1							オムニバス		
	システム工学Ⅱ	3後		1		○				1	1							オムニバス		
	システム工学Ⅲ	4後		1		○				1	1							オムニバス		
	医用機械工学	4後		1		○				1										
	生体材料工学	3前		1		○				1										
	生体物性工学	3前		2		○				1										
	生体物性・材料工学Ⅱ	4後		1		○				1										
	医用機器安全管理学Ⅰ	3前		2		○				2									オムニバス	
	医用機器安全管理学Ⅱ	4後		1		○				2									オムニバス	
	医用機器安全管理学実習	3後		1				○		2	2									
	医用治療機器学ⅠA	3前		1		○				1										
	医用治療機器学ⅠB	3前		1		○					1									
	医用治療機器学実習	3後		1				○		1	1			1						
	医用電気工学	3前		1		○					1									
	医用電気工学実習	3後		1				○			1									
	医用電子工学	3後		1		○					1									
	医用電子工学実習	3後		1				○			1									
	医用電気・電子工学特論	4後		1		○					2									
	医療安全管理学（臨床工学）	3前		1		○					1									
	看護学概論	3後		1		○									1					
	情報処理工学	3後		1		○						1								
	医療情報科学	3前		1		○						1								
	生体機能代行装置学Ⅱ	3前		2		○					1									
	生体機能代行装置学Ⅲ	3前		2		○				1										
	生体機能代行装置学Ⅳ	3後		2		○				1										
	生体機能代行装置学実習Ⅱ	3後		1				○		1	1				1				1	
	生体機能代行装置学実習Ⅲ	4前		1				○		1	1				1				1	
	臨床支援技術学	3前		1		○				1										
	臨床医学総論Ⅰ	3前		2		○				3										オムニバス
	臨床医学総論Ⅱ	3後		2		○				3										オムニバス
	基礎生体計測学	3後		1		○				1										
	手術・集中治療学	4前		1		○				1	1									オムニバス
	技能修得到達度評価（臨床工学）	3後		1		○				4	2									オムニバス
	臨床実習（臨床工学）	4前		6				○		4	2									
	臨床工学演習	4後		1				○		4	2									オムニバス
小計（38科目）		—	—	0	52	0	—	—	5	2	1	0	1	2						
合計（149科目）		—	—	68	129	0	—	—	10	4	2	1	1	37						
学位又は称号	学士（医療技術学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）														
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等												
【卒業要件】 一般教養科目 19単位以上（必修11単位含む）※1 専門基礎科目 27単位以上（必修26単位含む）※2 専門科目 82単位以上（必修31単位含む）※3 合計 128単位以上 ※1 臨床工学コースの場合は、「データサイエンス」を修得すること。 ※2 「臨床検査学基礎演習」若しくは「臨床工学基礎演習」のいずれかを修得すること。 ※3 臨床検査学コース科目群又は臨床工学コース科目群のいずれかをすべて修得すること。 ・臨床検査学コースの場合は、共通科目群の選択科目から1科目以上、かつ、臨床工学コース科目群から指定する選択科目を2科目以上修得すること。 ・臨床工学コースの場合は、共通科目群の選択科目から「画像解析学」を含む2科目以上、かつ、臨床検査学コース科目群から指定する選択科目を1科目以上修得すること。								1学年の学期区分				2学期								
								1学期の授業期間				15週								
【履修科目の登録の条件】 46単位（年間）								1時限の授業の標準時間				90分								

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(医療保健学部理学療法学科)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 (助 手 を 除 く) 以 外 の 教 員	
一 般 教 養 科 目	北陸大学の学び	1前		1			○								1		
	生命・医療倫理学	1前		1			○								1		
	スポーツ I	1前			1					○					1		
	スポーツ II	1後			1					○					1		
	情報リテラシー	1前		1					○						1		
	データサイエンス	1後			1				○						1		
	心理学	1後			2			○							1		
	法学	1後			2			○							1		
	哲学	1後			2			○							1		
	社会学	1前			2			○							1		
	コミュニケーション論	2後			2			○							1		
	北陸の文化と社会	2前			2			○							1		
	日本史	2後			2			○							1		
	化学	1前			1					○					1		
	生物学	1前			1					○		1			1		
	数学	1前			1					○					1		
	物理学	1前			1					○					1		
	英語 I	1前			1					○					2		
	英語 II	1後			1					○					2		
	医療英語	3前				1		○				1	1				
基礎ゼミナール I	1前			1					○		4	2	4	2			
基礎ゼミナール II	1後			1					○		4	2	4	2			
海外研修 I	2前					1								1	標準外		
海外研修 II	2後					1								1	標準外		
教育学概論	2前				2				○					1			
教育方法論	2後				2				○					1			
小計 (26科目)		—	—	7	26	2			—		4	2	4	2	0	16	
専 門 基 礎 科 目	人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 心 身 の 発 達	解剖学 I	1前		2				○				1	1			
		解剖学 II	1前		2				○				1	1			
		解剖学実習	1後		1							○					
		生理学 I	1前		2				○				1				
		生理学 II	1後		2				○				1				
		生理学実習	2前		1							○		1	1		
		運動学	1後		2					○			1				
		運動学実習	2前		1									1	1		
		人間発達学	1後		2					○			1				
	小計 (9科目)		—	—	15	0	0			—		3	1	1	1	0	0
疾 病 と 障 害 の 成 り 立 ち 及 び 回 復 過 程 の 促 進	リハビリテーション医学	1後		2					○			1					
	整形外科学	2前		2					○			1					
	病理学	1後		2					○							1	
	臨床心理学	3前		2					○							1	
	精神医学	2後		2					○							1	
	内科学	2前		2					○							1	
	薬理学	3前		2					○							1	
	神経内科学	2前		2					○							1	
	栄養学	3後		1					○							1	
	小児科学	2後		2					○							2	オムニバス
	画像診断学	3後		1					○							1	
救急処置法	3後		1					○							1		
小計 (12科目)		—	—	21	0	0			—		1	0	0	0	0	11	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員		
専門基礎科目	リハビリテーション概論	1前	/	2			○			1							
	医療統計学	3後		1			○									1	
	チーム医療論	3後		1			○									1	
	地域包括ケアシステム論	3後		1			○									1	
	小計(4科目)	—	—	5	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0	3		
専門科目	理学療法学概論	1前	/	2			○			1							
	基礎理学療法学	1後		2			○					1			1		
	運動療法学	1後		2			○			1							
	運動療法学実習	2前		1					○	1		1					
	医療安全管理学	2前		1			○			1						1	
		小計(5科目)	—	—	8	0	0	—	—	1	0	2	0	1	1		
	理学療法管理学	4後	/	2			○			1							
		小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0		
	理学療法評価学	1後	/	2			○				1	1					
	理学療法評価学実習Ⅰ	2前		1					○		1	1					
	理学療法評価学実習Ⅱ	2後		1					○		1	1					
	理学療法評価学演習Ⅰ	2後		1					○		1	1					
	理学療法評価学演習Ⅱ	3前		1					○		1	1					
		小計(5科目)	—	—	6	0	0	—	—	0	1	3	2	0	0		
	理学療法治療学	2前	/	2			○					1					
理学療法実習	2後	1						○			2						
義肢装具学	2前	2					○								1		
義肢装具学演習	2後	1						○		1			1		1		
日常生活活動学演習	2前	1						○				1		1			
老年期障害理学療法演習	2後	1						○			1			1			
運動器障害理学療法	2後	2						○		1							
運動器障害理学療法実習	3前	1							○	1		1					
神経障害理学療法	2後	2						○		1							
神経障害理学療法実習	3前	1							○	1		1					
内部障害理学療法	2後	2						○			1						
内部障害理学療法実習	3前	1							○		1		1				
発達障害理学療法演習	3前	1							○	1				1			
予防理学療法	3前			2				○				1					
先進技術と理学療法	3前			2				○		2							
	小計(15科目)	—	—	18	4	0	—	—	2	1	4	2	2	1			
地域理学療法	地域理学療法	3前	/	2			○				1						
	生活環境学	3後	1				○								1		
	地域理学療法演習	3後		1				○			1			1			
	小計(3科目)	—	—	3	1	0	—	—	0	0	1	0	1	1			
臨床実習	臨床基礎実習	1前	/	1					○	2	2	4	2	2			
	検査・測定実習	2後		2					○	2	2	4	2	2			
	臨床評価実習	3後		4					○	2	2	4	2	2			
	総合臨床実習Ⅰ	3後～4前		6					○	2	2	4	2	2			
	総合臨床実習Ⅱ	4前		6					○	2	2	4	2	2			
	地域理学療法実習	4前		1					○	2	2	4	2	2			
	小計(6科目)	—	—	20	0	0	—	—	2	2	4	2	2	0			
総合科目	理学療法学研究法	3後	/	1				○	4	2	4						
	総合理学療法演習Ⅰ	3後	1					○	1	1	1						
	総合理学療法演習Ⅱ	4後	2					○	1	1	2	2					
	卒業研究	4通	2					○	4	2	4						
	小計(4科目)	—	—	6	0	0	—	—	4	2	4	2	0	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く教員			
専門科目	発展科目	スポーツ科学	1前	/	2	○										1			
		アスレチックリハビリテーション概論	1後		2	○				1									
		運動神経生理学	2前		2	○												1	
		バイオメカニクス	3前		2	○												1	
		トレーニング論	3後		1	○												1	
		スポーツ障害理学療法	2後		2	○					1								
		リハビリテーション工学	3前		2	○												1	
		東洋医学	1後		2	○												1	
		医用情報科学概論	2前		2	○												1	
		東洋医学治療学	2後		2	○												1	
		免疫・感染症学	3前		2	○												1	
		疾病予防と健康増進	3前		1	○						1							
		臨床薬学	3後		1	○												1	
		公衆衛生学	4後		1	○												1	
		臨床生理学	4後		2	○												1	
小計（15科目）		—	—	0	26	0	—	—	—	—	2	0	0	0	0	10			
合計（105科目）		—	—	111	57	2	—	—	—	—	4	2	4	2	2	39			
学位又は称号		学士（理学療法学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（リハビリテーション関係）												
卒業要件及び履修方法							授業期間等												
【卒業要件】 一般教養科目 14単位以上（必修 7単位含む） 専門基礎科目 41単位 専門科目 73単位以上（必修63単位含む） 「予防理学療法学」又は「先進技術と理学療法学」 からどちらか1科目2単位選択必修 合計 128単位以上							1学年の学期区分		2期										
【履修科目の登録の上限】 48単位（年間）							1学期の授業期間		15週										
							1時限の授業時間		90分										

授 業 科 目 の 概 要				
(医療保健学研究科医療保健学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基 盤 科 目 群	医療保健学特論		<p>（概要）本科目は、健康社会の実現に向けて医療技術者が果たす役割や生命・医療倫理について講義するとともに、ディスカッションを行いながら医療技術者の役割や生命・医療倫理について認識を深める。また、地域における医療提供体制や地域医療構想について講義するとともに、近年の感染対策や今後の地域医療における医療技術者の役割や医療機器の活用、地域医療の展望や課題について講義を行い、適宜ディスカッションを行いながら、今後の保健医療体制の中で要として機能するための知識や態度を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全13回）</p> <p>（1 大畑光司／3回） 次世代の地域医療として、先端医療機器の研究開発並びに社会実装の状況等を理解し、将来的な展望と取り組むべき課題や効果的な先端機器の活用について教授する。</p> <p>（2 小宮智義／2回） ウイルスや細菌などによる感染症の治療と予防のための化学療法剤、ワクチンについて教授する、また、近年の感染対策の現状と課題について教授する。</p> <p>（7 大工谷新一／4回） 地域医療構想における、在宅医療や医療・介護連携について教授する。また、地域医療構想の実現に向けた課題等に関する知識を深めるとともに、医療技術者として果たす役割を理解する。</p> <p>（8 油野友二／4回） 「健康社会の実現」に向けた医療技術者の役割を教授する。また、地域における医療提供体制の現状を理解し、環境改善に向け医療技術者が取り組むべき課題等について理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤科目群	医療保健学研究法特論		<p>(概要) 科学としての医療保健学を实践するために必要な具体的研究法を修得することを目的に、量的、質的、定性的、定量的、観察、介入、調査など様々な研究方法とその意義、及び医療保健学を研究する上での倫理、研究に関する法律やルールについて、担当教員が実践してきた研究内容をもとに教授する。様々な分野の教員の実践内容をもとに教員と学生が討論し、医療保健学分野における研究法の理解を深め、医療保健学分野における研究のあり方、必要性、可能性、研究倫理について、具体的な研究内容をもとに教授する。</p> <p>担当教員の専門領域における実際の研究を題材とし、医療保健学に関する研究を実施する上で基礎となる臨床研究の批判的吟味、先行研究レビューから結果の解釈、研究計画書の作成、及び研究倫理（捏造、改ざん、盗用、二重投稿、引用・転載、利益相反）と倫理審査、スライド・ポスターや論文の作成方法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全26回)</p> <p>(3 佐藤妃映/4回) 研究の必要性を教授し、実際の研究テーマの選定と研究計画の立案及び研究デザインの構築方法について教授する。また、研究テーマの選定やデザインの検討に必要な英語論文の読み方についても教授し、医療保健学研究法を総括的に指導する。</p> <p>(9 金澤佑治/4回) これまでの研究活動をもとに、主として研究倫理、すなわち研究不正や著作権、ヒトを対象とした研究と倫理審査、動物を対象とした研究と倫理審査について諸規定及び具体的研究事例をもとに教授する。</p> <p>(10 周尾卓也/4回) 研究法を構成する基本的統計解析手法と量的研究法と質的研究法について教授する。また、実践例として神経生物学研究から具体的な研究法を教授する。</p> <p>(11 關谷暁子/2回) 研究法における研究計画書の書き方を教授する。また、具体的な研究の実践例として教育に関する研究を教授する。</p> <p>(12 野口雅弘/3回) 研究の基盤となる科学研究費等の種類と申請方法について教授する。また、具体的な研究法としての研究論文の書き方について、論文の基本構成と作成手順、資料収集と表記、引用の仕方について教授する。</p> <p>(13 岡山裕美/2回) 研究成果としての抄録を学会で発表するための手順や実際の発表方法について教授する。さらに、研究から発表の実践例を運動生理学研究をもとに教授する。</p> <p>(14 合田明生/2回) 研究にとって重要な情報の整理方法、特に学術論文の種類と構成、及び文献の検索方法や論文の一般的な読み方について教授する。</p> <p>(15 宮地諒/2回) 研究成果としての論文の投稿に関する注意や方法について教授し、合わせて査読の概要についても教授する。また、研究の実践例として予防理学療法学に関する研究についても供覧する。</p> <p>(23 二ノ倉欣久/3回) 研究に関連する倫理として、主として医療倫理としての四原則や臨床倫理について、事例研究をもとに教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤科目群	地域医療連携特論		<p>(概要) 少子高齢化、医療技術の進歩、経済状況などの変化により医療を取り巻く環境も刻々と変化している。中でも我が国においては少子高齢化の速度が速く、医療・福祉制度の再構築が喫緊の課題として議論されている。このような状況下で医療供給体制の検討が行われ、良質で安全かつ効率性のあるシステムが模索されており、医療連携が重要なキーワードである。施設完結から地域完結型医療へ、さらに、医療と介護の連携の流れは急速に広まっていくものと思われる。本特論では、地域医療連携に関する様々な問題を、諸外国の医療制度改革、日本の医療制度の変遷と照らし合わせて現状を認識し、医療技術者としての今後の方向性について理解を深めたい。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(17 石川和宏／7回) 地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉の仕組みと意義を理解する。これらの活動に参加することで、医療技術者として地域住民の健康の回復、維持、向上にどのように関わることができるかについて議論する。</p> <p>(18 大柳賀津夫／6回) 人と社会に関わる医療人として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規制度・経済及び地域包括ケアシステムに関わる高度専門職業人の役割を理解する。地域における医療と介護の連携に関する具体例を基に、その有益性や問題点について議論する。</p>	オムニバス方式
	病態生理学特論		<p>(概要) 病態生理学は、人体が正常に営む仕組みを学ぶ生理学が基礎となっているが、生理学的知見に加えて、生化学、分子生物学、遺伝学、生体防御学など幅広い知識のもとに症候や疾患を捉える必要がある。本特論では各疾患について、その成り立ちに焦点を合わせて学ぶ。また代表的な疾患については実際の症例を用いて検討し、理解を深めていく。これらの学びを通して、各疾患で現れる症状、異常検査値、治療アプローチなどが理解できるようになることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(21 高橋達雄／6回) 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。特に骨・関節の疾患の病態生理や症状等について、実際の症例を用いて学ぶ。</p> <p>(22 高橋寿明／7回) 身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。特に呼吸器系・消化器系疾患の病態生理や症状等について、実際の症例を用いて学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤科目群	健康医科学特論		<p>(概要) 超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が喫緊の課題となっている。健康維持や疾病予防の観点から、各種疾病について、疾病の成り立ち、診断基準の変化など、最近の進歩を含めて総括的に学ぶ。更に、成長期における健康科学の内容も加える。医療専門職として臨床医学分野の最新の知識を学ぶことは、自らの生涯学習として有用だけでなく、専門職として接する患者や家族の状況を理解し専門的判断を構築する際に役立つと思われる。また、健康科学全般の総合的な知識は、コミュニケーション能力を高めるうえで重要な土台となる。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(22 高橋寿明/4回) 健康寿命延伸に向け対策が必要な疾患(骨粗しょう症、高血圧や脂質異常症による心疾患・脳血管疾患、糖尿病)に対する予防アプローチについて学ぶ。健康の維持や疾病予防に向けた効果的アプローチの実践例について議論する。</p> <p>(25 松尾由理/5回) 日常生活における各種食材や健康食品による健康増進効果と疾患予防効果について学ぶ。特に脳神経疾患に対する予防効果については、具体的な症例や効果発現に関わる作用メカニズムについて議論する。</p> <p>(26 光本泰秀/4回) 補完代替医療に含まれる材料や手法に関し、人体に対する効能・効果の裏付けとなる科学的エビデンス(臨床効果や基礎的作用機序)について学ぶ。西洋医療と補完代替医療を組み合わせた統合医療の有益性や問題点について科学的側面から議論する。</p>	オムニバス方式
	医療統計学特論		<p>医学・医療分野では信頼できる結論を導く際にデータを統計的方法で解析し結論を求めることが多い。本特論は、既に学部で統計学の基本を学んだことを前提により深く、統計基礎と医学応用を中心に学ぶ。基礎では、確率変数と分布、大数の法則、近似表現、推定理論と検定理論等に焦点を当て、統計の考え方を理解することに重点を置く。医学応用では、標本の大きさデザイン、分散分析(ANOVA)、臨床試験と疫学における利用について理解する。さらに、医療と地域経済を関連付けた分析を行うための統計資料の取り扱いについても学ぶ。医学・医療で使う統計手法を理論と応用の両面から修得する。</p>	
	疾患薬理学特論		<p>(概要) 薬理学とは、薬物が効果を発揮する際に、生体のどこで、どのような標的分子に対してどのように作用するかを論理的に理解する学問である。薬物の効果に関わる作用機序の理解や治療の応用性などを明らかにすることは、薬物治療における適切な医薬品の選択、適正な用法・用量を導き出すうえで重要な根拠となる。また、有用性のより高い医薬品を生み出すための指標を提供し新たな医薬品の創製に貢献する。本特論では、分子レベル、細胞レベル、個体レベルにおける薬物の薬理について総括的に考察するとともに、治療的応用性について概説する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(21 高橋達雄/4回) 抗不整脈薬、心不全治療薬、虚血性心疾患治療薬及び高血圧に対する治療薬利尿薬の薬理作用、機序及び副作用について学ぶ。利尿薬の薬理作用、機序及び副作用について学ぶ。</p> <p>(25 松尾由理/5回) 薬物が作用する仕組みについて、受容体や細胞内情報伝達と、それに作用する薬物について概説する。生体の恒常性維持に重要なホルモンの役割を理解し、その異常により生じる内分泌系疾患とその治療薬における、薬理作用、機序及び主な副作用について学ぶ。糖尿病治療薬や脂質異常症治療薬の薬理作用、機序及び主な副作用について学ぶ。</p> <p>(26 光本泰秀/4回) 精神疾患(統合失調症、うつ病、不安神経症)の病態及び治療薬の薬理について学ぶ。神経変性疾患(パーキンソン病、アルツハイマー病)の病態及び治療薬の薬理について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤科目群	健康心理学特論		健康心理学は、心身の健康を目指した臨床心理学の応用領域の一つである。本科目では、健康の増進やリスク予防、健康・医療心理学に関する課題を概観しながら、ウェルビーイングを支える習慣や健康リスク、健康リスクのある集団へのアプローチ、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、医療における行動と心理や疾病を抱える人たちとのコミュニケーションの取り方やメンタルヘルスケアの基本、災害時における心の健康とその支援、これらを支える法律や制度について理解する。	
	教育方法学特論		高度専門職業人に期待される、部門における人材育成や学生指導において、医療専門職としては、その様々な背景から「教育とは何か」、「教育はどうあるべきなのか」といった問いに対して、経験に根ざしたさまざまな考えや意見をもっている。しかし、人材育成や学生指導といった教育に取り組むうえで、それが個人的・独善的な考えに基づいたものであってはならない。本科目では、個人の経験を超えた俯瞰的で多角的な視座を得るための重要な手がかりとして、教育の基本的概念を理解する。	
	臨床教育学特論		<p>(概要) 部門管理において、職員教育（人材育成）は重要となる。職場における教育には、目標管理、人事考課、品質保証（質の管理）などの指標の理解から、職場内教育（On-the-Job Training、OJT）、面接（面談）、研究指導などの方法論の理解まで、多くの事柄を理解しておく必要がある。また、高度専門職業人においては、部門における人材育成だけでなく、後進を指導、教育する能力も求められる。本特論では、部門管理の中で重要となる教育（人材育成）の基盤となる理論や制度と具体的方法及び評価方法について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(7 大工谷新一／7回) 臨床における人材育成、学生教育に関する体制と指標について、病院、介護事業所での実例をもとに目標管理の考え方とその必要性、実践方法について教授する。具体的には、バランススコア、職位別の職能要件について、人事考課制度についてその意義、必要性、ならびに実践方法を教授する。さらに、臨床での学生教育の方法としての診療参加型臨床実習の理論的背景と実践方法、利点、欠点、ならびに臨床での研究としての簡易な機器を用いた研究及び症例研究について教授する。</p> <p>(8 油野友二／6回) 臨床における教育、人材育成の重要性と質保証について、部門で実施する臨床教育及び学生教育の観点から実践例とその効果について教授する。さらに、臨床教育に関連する多職種連携として病院での実例と学部における医療関連職の多職種連携教育の実例をもとに、その意義と実践方法及び医療専門職養成における指定規則、ガイドライン、コアカリキュラムについて教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群	共通科目	人体機能学特論	<p>(概要) 人体機能の理解は、医療保健学の実践、研究に携わる場合の必須となる知識である。高度専門職業人には、健康な人の生理機能とそれを可能にするメカニズムを理解したうえで、人体機能を分子、細胞レベルから、組織・器官・個体レベルの高次の統合機能まで系統的・階層的に理解することが求められる。本科目では、人体の生命現象を担う機能としての生命維持を担う機能と外界に適應する機能について、個体、臓器、細胞及び分子レベルという観点から、組織と物質的基盤に基づいた生理機能を教授する。また、健康な人の生理機能だけでなく疾病や障害を有する場合の病態生理、機能についても言及する。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(4 清水慶久／3回) 自律神経、脳神経、血液系を中心に、人体の生命現象を担う機能としての生命維持を担う機能と外界に適應する機能について、個体、臓器、細胞及び分子レベルという観点から、組織と物質的基盤に基づいた生理機能及び疾病や障害を有する場合の病態生理、機能を教授する。</p> <p>(5 少作隆子／4回) 中枢神経系、神経伝達系、遺伝子系、運動学習を中心に、人体の生命現象を担う機能としての生命維持を担う機能と外界に適應する機能について、個体、臓器、細胞及び分子レベルという観点から、組織と物質的基盤に基づいた生理機能及び疾病や障害を有する場合の病態生理、機能を教授する。</p> <p>(9 金澤佑治／3回) 細胞外マトリクス、骨格筋、血管を中心に、人体の生命現象を担う機能としての生命維持を担う機能と外界に適應する機能について、個体、臓器、細胞及び分子レベルという観点から、組織と物質的基盤に基づいた生理機能および疾病や障害を有する場合の病態生理、機能を教授する。</p> <p>(10 周尾卓也／3回) 生化学、電解質、浸透圧を中心に、人体の生命現象を担う機能としての生命維持を担う機能と外界に適應する機能について、個体、臓器、細胞及び分子レベルという観点から、組織と物質的基盤に基づいた生理機能及び疾病や障害を有する場合の病態生理、機能を教授する。</p>	オムニバス方式
		人体機能学演習	<p>(概要) 医療保健学分野の高度専門職業人には健康な人の機能と疾病や障害を有する人の機能(病態生理)の理解に加えて、複合疾患、複合障害を有する人の機能(病態生理)についての理解も求められる。人体機能学特論で修得した知識をもとに複合疾患や複合障害など、多様な病態を有する人において、生体が外界の情報をどのように感知し、どのように適切に反応するのかを理解する。人間の多様な生理機能を、組織学、電気生理学、生物学、生化学の観点から文献抄読及び討論を通して理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(4 清水慶久／3回) 自律神経、脳神経、血液に関する知識をもとに複合疾患や複合障害など、多様な病態を有する人において、生体が外界の情報をどのように感知し、どのように適切に反応するのかを文献抄読及び討論を通して教授する。</p> <p>(5 少作隆子／4回) 中枢神経系、神経伝達、遺伝子、運動学習に関する知識をもとに複合疾患や複合障害など、多様な病態を有する人において、生体が外界の情報をどのように感知し、どのように適切に反応するのかを文献抄読及び討論を通して教授する。</p> <p>(9 金澤佑治／3回) 細胞外マトリクス、骨格筋系、血管系に関する知識をもとに複合疾患や複合障害など、多様な病態を有する人において、生体が外界の情報をどのように感知し、どのように適切に反応するのかを文献抄読及び討論を通して教授する。</p> <p>(10 周尾卓也／3回) 生化学、電解質、浸透圧に関する知識をもとに複合疾患や複合障害など、多様な病態を有する人において、生体が外界の情報をどのように感知し、どのように適切に反応するのかを文献抄読及び討論を通して教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群 領域科目 臨床検査学領域	病態分析検査学特論		<p>(概要) 生体試料より得られる生体情報を有効活用する基礎となるのは分析技術である。この特論では、分析技術の変革を理解し、今後の方向性を理解する。そのうえで臨床検査データから各種疾患の病態を解析するための方法論を修得し、臨床所見などからの情報収集能力と情報分析能力を向上させる。さらに臨床の現場でより分かり易く有用な情報として伝える事の出来る専門的技術者の育成目的としている。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(3 佐藤妃映/4回) 分子病理学的検査の概要、臨床での実際、病理組織検査・細胞診検査における免疫組織化学染色法の意義や特徴、手技及び診断の実際について教授する。また、免疫組織化学染色法の課題と臨床での有用性についても教授する。</p> <p>(8 油野友二/5回) 検体検査を中心とした臨床検査法の変化と診療における役割、診療ガイドラインの目的、作成過程、システマティックレビュー等について教授する。また、腎尿路系疾患の早期診断、治療過程における臨床検査の役割と今後の展望として、尿定性検査・尿沈渣検査からの病態情報及び腎機能検査の現状と課題、特に高齢者について教授する。</p> <p>(11 關谷暁子/4回) 血液検査学領域において検査・診断技術はどのように発展してきたかという視点で血球計数および形態学的検査、止血・凝固検査について教授する。また、造血器腫瘍の遺伝子検査と分子標的治療、血栓止血領域の新たな治療薬と止血・凝固検査について教授する。</p>	オムニバス方式
	病態分析検査学演習		<p>(概要) 病態分析検査学特論を基盤として、国内外の論文から臨床検査の臨床的有用性に関する論文を中心に抄読・討議し、医療現場で要求される様々な課題の解決につながる分析法、検査法の開発・活用・臨床の評価等、医療に貢献できる臨床検査技術を集学的に修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(3 佐藤妃映/4回) 病理組織標本を用いたゲノム解析技術について、臨床的有用性、臨床での課題に関する論文を中心に抄読・討議する。また、今後のゲノム解析技術の課題解決や開発・発展に関する論文を中心に抄読・討議する。</p> <p>(8 油野友二/5回) 腎尿路疾患に関連した診療ガイドラインの検索、臨床検査関連事項の洗い出し、診療ガイドラインにおける臨床検査関連事項の記載表現と臨床現場における問題点や課題について考える。また、尿沈渣成分が示す病態情報、腎機能検査の精度、問題点などに関する文献検索とその有用性についてのレビューとして測定法上の問題点、高齢者などにおける課題および推定指標について抄読・討議する。</p> <p>(11 關谷暁子/4回) 日常業務におけるリサーチクエスションの発見から研究へというテーマで血球計数及び形態学的検査、造血器腫瘍の遺伝子検査と分子標的治療、止血・凝固検査、血栓止血領域の新たな治療薬と止血・凝固検査について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群 領域科目 臨床検査学領域	感染制御学特論		<p>(概要) COVID-19感染症の流行を契機に感染症の診断・治療・予防の技術は大きく革新され、PCR検査を始めとした検査体制の強化、mRNAワクチンなどの新しいプラットフォームを用いたワクチン開発が迅速化されている。感染制御学は、病原微生物の封じ込めを徹底するための戦略を探究する学問であり、感染症学や臨床微生物学等の領域とも密接に関連している。本特論では、感染症の病因における宿主の防御機構として、バリア機構、非特異的な免疫応答、特異的な免疫応答などについて理解を深め、宿主と病原微生物との関連性及び病原微生物の拡散の機序とその挙動を監視するための方法を学び、これらを基盤に感染制御に資するための高度な専門的知識を養い、実践場における問題解決につながる実践力及びそれらを後進に指導できる能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(2 小宮智義/11回) ワクチンの歴史、免疫システムの基礎、現行ワクチンの各論、最新のワクチン開発事例を学びワクチンの知識基盤について教授する。また、各種感染症(耐性菌感染症を含む)の診断方法について学ぶ。</p> <p>(16 松村隆弘/2回) 主な熱帯病(特に寄生虫症)の病原体、症状、診断・予防・治療法について教授する。</p>	オムニバス方式
	感染制御学演習		<p>(概要) 感染制御学特論で学んだ知識を基盤とし、国内外において発生した感染症事例について論文を精読・討議を行うとともに医療関連感染及び市中感染における感染制御のアプローチを学ぶ。また、ワンヘルス(One Health)の概念に基づきヒト、動物、環境から感染制御をアプローチする最新の考え方を理解し、専門力や問題解決力を高めるとともに、高度な説明力が求められるチーム医療に不可欠なコミュニケーション力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(2 小宮智義/11回) ポストゲノム時代に必要な遺伝子クローニングと遺伝子発現の基本技術について教授する、特に細菌、ウイルスの培養同定技術、基本的な実験動物の取扱い、感染症診断と先端技術への応用技術について学ぶ。また、先端の研究を把握できる能力を育成するため、それら原著科学論文の紹介を行う。</p> <p>(16 松村隆弘/2回) 寄生虫疾患の診断法、特に遺伝子診断について教授する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群 領域科目 理学療法学領域	運動機能回復学特論		<p>(概要) 身体運動機能障害について専門的理解を促進し、身体運動機能回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を修得する。身体運動の根幹をなす、運動器及び呼吸循環代謝機能の障害に対する理学療法学の現状と未来を国内外の文献を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究手法を修得する。これらを通じて、身体運動機能の低下及び喪失からの機能回復への新たな理学療法の検討・開発につながるよう内容を発展させる。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(7 大工谷新一/5回) 運動器障害、筋短縮に対する理学療法研究を供覧し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究手法を教授する。また、スポーツ外傷後の運動神経生理学研究、スポーツ動作の改善に関する臨床研究、要介護者の運動機能回復に関する研究についても同様に教授する。</p> <p>(12 野口雅弘/4回) 透析患者に対する運動療法、身体不活動による弊害とその対策、肥満を起因とする生活習慣病の予防、代謝疾患に対する運動処方に関する各々の研究を供覧し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究手法を教授する。</p> <p>(13 岡山裕美/2回) ストレッチングに関する研究及び基本的理学療法技術に関する研究を供覧し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、理学療法技術を科学的に捉えるために必要な研究手法を教授する。</p> <p>(15 宮地諒/2回) 腰痛に対する理学療法研究、及び超音波を用いた理学療法効果検証に関する研究を供覧し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床で超音波検査を科学的に応用するために必要な研究手法を教授する。</p>	オムニバス方式
	運動機能回復学演習		<p>(概要) 運動機能回復学特論で修得した理論を軸として、高齢者や様々な疾患患者の運動機能障害事例を臨床的な症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を通じて、運動機能の回復過程とその評価及び支援方法についての実践的な考察を深め、運動機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求し討論していく。</p> <p>(オムニバス方式/全13回)</p> <p>(7 大工谷新一/5回) スポーツ外傷・障害、変形性関節症、骨折の回復過程とその評価及び支援方法について症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を供覧し、問題点と改善方法に関する討論を通じて教授する。</p> <p>(12 野口雅弘/4回) 糖尿病の回復過程とその評価及び支援方法、及び虚弱高齢者の特徴と運動機能障害の評価及び支援方法、ならびに肥満を起因とする生活習慣病の回復過程とその評価及び支援方法について症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を供覧し、問題点と改善方法に関する討論を通じて学修する。また、介護予防や健康増進に関連する評価及び支援方法についても教授する。</p> <p>(13 岡山裕美/2回) 筋損傷の回復過程に関する評価と支援方法、及び基本的理学療法による機能回復について症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を供覧し、基本的理学療法技術に関する討論を通じて教授する。</p> <p>(15 宮地諒/2回) 腰痛症、廃用症候群の回復過程とその評価及び支援方法について症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を供覧し、問題点と改善方法及び廃用症候群の予防に関する討論を通じて教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目群 領域科目 理学療法学領域	生活機能回復学特論		<p>(概要) 先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害について専門的理解を促進し、生活機能の回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を修得する。生活機能を構成する心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子に関連する国内外の文献を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法を修得する。また、介護領域におけるロボットなどを用いた臨床研究に関する理解も深める。これらを通じて、生活機能の低下及び喪失からの回復への新たなリハビリテーション手段の検討・開発につながるよう内容を発展させる。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(1 大畑光司／5回) 発達障害者の生活機能、脳血管障害の生活機能、生活機能回復への介護ロボットの活用、遠隔での運動指導による生活機能向上、ロボットを用いた活動・参加の向上について専門的理解を促進し、生活機能の回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を教授する。</p> <p>(6 染矢富士子／5回) 生活機能を構成する心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子に関連する最新の知見を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法の基盤を教授する。さらに、障害者の生活機能、変性疾患患者の生活機能、老化と生活機能、生活機能回復に関わる環境因子について専門的理解を促進し、生活機能の回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を教授する。</p> <p>(14 合田明生／3回) 認知症患者の生活機能、地域在住高齢者の生活機能、生活機能低下予防について専門的理解を促進し、生活機能の回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を教授する。</p>	オムニバス方式
	生活機能回復学演習		<p>(概要) 生活機能回復学特論で修得した理論を軸として、生活機能の様々な構成要素及び先進デバイスに関する臨床的な症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を通じて、生活機能の回復過程とその評価及び支援方法についての実践的な考察を深め、生活機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求し討論していく。</p> <p>(オムニバス方式／全13回)</p> <p>(1 大畑光司／5回) 発達障害者の生活機能、脳血管障害の生活機能に関する研究を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法を教授する。さらに、介護ロボットや遠隔での運動指導に関する臨床研究、ロボットを用いた活動・参加の向上に関する研究についても同様に教授する。</p> <p>(6 染矢富士子／5回) 生活機能回復学研究の総論として、生活機能障害について専門的理解を促進し、生活機能の回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法について、様々な論文をもとに教授する。さらに、障害者の生活機能、変性疾患患者の生活機能、老化と生活機能、生活機能回復に関わる環境因子に関する研究を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法を教授する。</p> <p>(14 合田明生／3回) 認知症患者の生活機能、地域在住高齢者の生活機能向上に関する研究、生活機能低下予防に関する研究を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法を教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
特別研究	医療保健学特別研究		<p>(概要) 各専門領域における研究テーマについて、国内外の文献講読、調査・実験、研究データの解釈と検証を行い、研究成果を修士論文として作成するための指導を行う。</p> <p>(1 大畑光司) 中枢神経疾患（脳卒中、脳性麻痺）などの歩行や動作におけるバイオメカニクスや中枢処理過程の特徴を把握し、機能改善のメカニズムを解明に向けた理学療法、また、得られた知見を元に遠隔での運動指導やリハビリテーション関連機器の開発及びその社会実装についての研究指導を行う。</p> <p>(2 小宮智義) ①フラビウウイルスの感染やワクチンで誘導される免疫応答、②人獣共通感染症の診断及び予防に関する課題調査・研究を指導する。</p> <p>(3 佐藤妃映) 分子病理学的手法を用いて、液状化検体細胞診の診断精度向上とがんゲノム医療への応用に関する研究を指導する。</p> <p>(4 清水慶久) 個人特性を考慮した、①臨床検査値の生理的変動要因の解析もしくは②香りに反応する自律神経系の関係について、研究計画の作成・実施、論文作成までを指導する。</p> <p>(5 少作隆子) 脳の正常機能あるいは脳卒中などによる脳機能障害の病態・発症メカニズム・治療・発症予防などに関する研究指導を行う。</p> <p>(6 染矢富士子) リハビリテーション医学における疾病の機能障害の捉え方と生活の質(QOL)との関連性について研究指導を行う。</p> <p>(7 大工谷新一) スポーツ外傷・障害、運動器疾患全般の機能障害や動作の変化を理解し、受傷メカニズムの解明、競技復帰、受傷予防に向けた理学療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 油野友二) 尿中赤血球の量的及び形態的検討から腎尿路系の病態情報としての有用性の検討について研究指導を行う。</p> <p>(9 金澤佑治) サルコペニアの病態解明とその治療戦略の基盤構築に関する研究を指導する。</p> <p>(10 周尾卓也) 物質的な基盤に立って、生物化学的な側面から、医療技術の開発にかかわる研究論文の作成・発表を指導する。</p> <p>(11 關谷暁子) 「臨床検査学」「検査血液学」「多職種連携」の領域において、医療保健学教育の発展に資する教育プログラム及び教材の開発、実践ならびにその評価に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 野口雅弘) 加齢による身体機能の変化及び腎疾患や糖尿病、末梢循環障害に起因する機能障害について理解を深め、それらの予防や治療に関する研究の立案から論文執筆までの研究プロセスを指導する。</p> <p>(13 岡山裕美) スポーツ外傷・障害、運動器疾患の機能障害や動作障害を理解し、障害の発生や予防とその改善に向けた理学療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 合田明生) 高齢者の心身機能の低下や能力障害発生のメカニズムの解明や発症予防及び疾患の進行予防に向けた理学療法に関する研究指導を行い、研究計画の立案、研究実施、論文執筆などを指導する。</p> <p>(15 宮地諒) 腰痛や慢性足関節不安定症等の筋骨格系障害を中心に、病態の解明、発症・再発予防や進行抑制・改善に向けた理学療法についての研究指導を行い、研究計画の立案、研究実施、論文執筆等を指導する。</p>	